

令和6年度 総務企画委員会 県内所管事務調査の概要

令和6年5月8日（水）

◆調査箇所：葛原神楽保存会（佐伯市蒲江葛原浦）

【概要】

地方では人口減少や高齢化が進んでおり、佐伯市蒲江町葛原地区でも若者が減少している。130年の歴史を持つ葛原岩戸神楽の舞台の組立てや片付けが難しくなり技能継承の課題もあった。令和4年度に地域活力づくり総合補助金を活用して常設の神楽殿を整備、子どもたちも参加する神楽の稽古が毎週定期的に行われるようになった。

当日は新設した神楽殿で、甲斐会長や参加者から団体の概要や保存会の活動について説明を受け、質疑と意見交換を行った。また、隣接する佐伯市蒲江葛原郷土文化保存伝習所の施設調査も実施した。



<主な質疑等>

- ・葛原地区の子どもの人数と稽古への参加状況、地元小中学校との連携について
- ・神楽を目的とした移住者や旧佐伯市内からの参加者について
- ・常設神楽殿の整備に向けた経緯や南部振興局の支援状況について
- ・葛原岩戸神楽の演目と特徴について

◆調査箇所：南部振興局

【概要】

南部振興局における組織及び人員、管内の概況、危機管理対応（令和5年度の地区災害対策本部の設置状況、南海トラフ地震対策、特定家畜伝染病対策）、地域振興施策の推進〔地域活力づくり総合補助金の活用状況、地域課題対応事業（宇目地域ブランディング事業、デジタル活用佐伯の魅力再発見事業）〕、高齢化集落対策の推進（ネットワーク・コミュニティ推進モデル委託事業及び推進体制整備事業）、移住・定住対策（佐伯市への移住状況、移住相談会への参加、社会人野球チーム創設による新たな若手人材確保）等について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・社会人野球チームの編成による移住・定住の効果について
- ・南海トラフ地震対策での防災訓練やハード面の対策、帰省時期の地震想定について
- ・佐伯市におけるネットワーク・コミュニティの推進と特徴について
- ・地域活力づくり総合補助金の活用状況と地域での掘り起こしについて

◆調査箇所：鶴見地域コミュニティ協議会（佐伯市鶴見沖松浦）

【概要】

佐伯市鶴見地域では過疎化や少子高齢化が進み、地域の行事等の運営が難しくなり、空き家の増加、買い物や交通手段などの課題がある。令和4年度から話す会や考える会を実施して検討を重ね、設立準備会を経て令和6年3月に鶴見地域コミュニティ協議会が設立された。また、地区公民館もコミュニティセンターに改変することで、特産品の販売が可能となるなど、今後は活動計画に基づいて幅広い地域活性化に取り組むこととしている。

当日は濱野会長や参加者から、これまでの経緯や住民アンケートの結果、今後の活動予定などについて説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・コミュニティ協議会に若者や女性の意見を取り入れた効果について
- ・鶴見地域の小中高校生の人数と地域に残る若者の人数について
- ・公民館がコミュニティセンターに改組したことによる業務の変化について
- ・コミュニティバスの活用状況と住民ニーズに沿ったダイヤ編成について

◆調査箇所：一般社団法人K I I S A（キイサ）（佐伯市大手町）

【概要】

一般社団法人K I I S Aは、佐伯市の若手中堅職員政策提案が原案となり、令和4年6月に設立された。学生の地域社会への参画促進や様々な情報提供と自主活動のサポートを通じて、多様な生き方や進路の選択肢を創出して可能性をひろげることを目的としている。活動拠点となるカフェは船頭町の旧歯科医院を改装し、リノベーションには高校生も参画している。

当日は、共同代表である富崎・河野両氏からプロジェクトの概要や行政連携事業、学生チャレンジサポートについて説明を受け、質疑と意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・カフェ開設時における高校生の関わりと佐伯市での起業希望について
- ・K I I S Aの活動資金とカフェでの売上、補助金等について
- ・K I I S Aプロジェクトと佐伯市職員の両立について
- ・K I I S Aのネーミングと佐伯市の魅力発信について

令和6年5月9日（木）

◆調査箇所：藤居醸造合資会社（豊後大野市千歳町新殿）

【概要】

藤居醸造合資会社は、昭和4年創業の歴史ある醸造蔵である。焼酎造りは完全手造りや独自の風味を醸す自家製蒸留器の作成など、徹底して焼酎の品質にこだわっている。令和4年には、新たにクラフトビールの醸造を開始、訪日外国人や国内観光客に対応した複合施設ブリュワリーショップレストランも開設し、地域住民の活動拠点の役割も担っている。

当日はクラフトビールや焼酎の製造施設、複合施設の調査を行うとともに、インバウンドへの対応やANA国際路線での焼酎提供など販路開拓の取組について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・複合施設における地域活性化総合補助金の活用と補助金額等について
- ・豊肥振興局の地域活性化関連事業との連携及び県への要望について
- ・藤居醸造合資会社への交通アクセスとコミュニティバス、路線バスの活用について
- ・販路開拓の取組について

◆調査箇所：コミュニティひろば i - m e i j i（イーメイジ）（竹田市平田）

【概要】

竹田市明治地区では過疎化や少子高齢化が進み、13ある自治会も世帯数が減少するなど、自治会機能が低下していた。そこで竹田市初となる地域運営組織、コミュニティひろば i - m e i j i を設立、企画委員会と理事会を分離して、より効率的な活動が行えるように組織体制を整備している。また、若者交流会などを開催しているが、会議等を効率的に行うデジタル化への取組や高齢者のスマートフォン利用を進めるためのスマホ教室の開催なども実施している。

当日は酒井会長や関係者から、組織や地域の概要などについて説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・企画委員会における女性の割合と若い男性の人数について
- ・高齢者のスマートフォン利用状況と連絡手段について
- ・自治会と i - m e i j i との関係及び活動資金等について
- ・住民の移動手段への支援と有償化について

◆調査箇所：豊肥振興局

【概要】

豊肥振興局における組織及び人員、管内の概況と特性等、令和6年度重点項目（園芸・畜産振興による産出額増大、多様な地域資源を活用したツーリズム振興）、地区災害対策、交通安全、特定家畜伝染病防疫対策、地域活性化施策の推進（地域活力づくり総合補助金のうち、竹田産スイートコーンのブランド力向上に向けた販売促進事業、カボスを活用した竹田城下町への域外誘客促進事業、地域資源を活用した市民交流推進事業）、高齢化集落対策、酒蔵を活用した地域活性化事業、観光農業連携地域活性化事業等について説明を受け、質疑と意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・地域活力づくり総合補助金の活用件数と地域格差、事業の周知等について
- ・地域活性化施策での酒蔵、農業、観光業等の事業者連携とまちづくり会社について
- ・豊肥振興局管内での企業による農業参入と課題等について
- ・高齢化集落応援隊や地域おこし協力隊との連携状況について

◆調査箇所：竹田商工会議所青年部（竹田市竹田）

【概要】

竹田商工会議所青年部では、年間を通じ四季折々の事業を行い地域活性化に取り組んでいるが、青年部会員数の減少が課題となっている。青年部では地元店舗を気軽に訪れてもらうことを目的として竹田“食楽”バルを平成25年度から継続して開催しており、令和5年度には地域活力づくり補助金を活用して、域外誘客とカボス利用を行うKABOSUでわっしょい♪2023を実施している。



当日は大塚会長や関係者から、青年部の組織や事業概要の説明を受け、質疑及び意見交換を行った。

<主な質疑等>

- ・竹田商工会議所及び青年部の会員数の推移と青年部の年齢制限等について
- ・域外誘客における駐車場整備と公共交通での市内宿泊施設往復の課題について
- ・青年部と商店街関係者の連携や事業継続及び補助金活用の課題について
- ・商工会議所と商工会の組織が分かれていることの課題について

令和6年5月15日（水）

◆調査箇所：東部振興局、別府県税事務所

【概要】

東部振興局における組織及び人員、管内の人口推移、危機管理対策（地区災害対策本部の組織と災害対応、特定家畜伝染病対策）、地域活力づくり総合補助金を活用した地域活性化の推進（空き家再生による鉄輪交流拠点整備事業、地域間交流事業、かぼすサーモンの海面養殖調査研究事業、国東半島峯道ロングトレイル10周年事業）高齢化集落対策、地域課題解決対応事業、移住者数の推移、別府県税事務所における組織及び人員、令和6年度重点取組事項、令和5年度県税決算見込額、税目別調定額の累年比較・徴収率の推移について、それぞれ説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・高齢者の運転免許返納後の交通対策とコミュニティバスの路線、活用状況について
- ・東部地域における移住者の状況と国東市における特徴的な取組について
- ・かぼすサーモン海面養殖調査研究事業の詳細と今後の見込みについて
- ・アドベンチャーツーリズム条例と国東半島峯道ロングトレイルのガイドについて

◆調査箇所：ホーバーターミナルおおいた（空港側）（国東市安岐町下原）

【概要】

令和6年秋に運航開始を予定しているホーバークラフトは、大分空港と大分市を最短で結ぶ海上アクセスとして、また定期航路としては日本唯一となり県民の期待を集めている。県では、大分空港海上アクセス整備事業で発着地の整備を行い、令和5年12月に空港側のターミナル上屋が完成している。ターミナルの外観は、空へと上昇し宇宙港大分を象徴することを意識し、内装は県産材を使用することで、訪れる観光客に大分の魅力をPRすることを目指している。

当日はターミナルやホーバー運航の安全対策について説明を受け、質疑及び意見交換を行い、訓練中に衝突事故があった航走路の状況を確認した。



<主な質疑等>

- ・航走路での衝突防止対策と衝突を想定した安全対策について
- ・ホーバーターミナル上屋の県産木材の利用について
- ・大分空港からターミナルまでの導線と点字ブロックの設置等について
- ・ホーバーターミナルの利活用と賑わいの創出について

◆調査箇所：有限会社中野酒造（杵築市南杵築）

【概要】

有限会社中野酒造は、明治7年創業の歴史ある醸造蔵である。主力となる日本酒「知恵美人」に加え、杵築市産の紅茶やイチゴを使ったリキュール、酒粕を利用したクリームチーズや化粧品の販売など、多角的な販売戦略を展開している。国内外の消費者をターゲットとした酒蔵ツーリズムにも取り組み、キッチン・ラボの新設や男女別トイレの設置など受入環境の整備を行っている。

当日は酒蔵など製造施設とキッチン・ラボ等を調査するとともに、好調な輸出や蔵開きのイベント等について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・海外の日本酒コンクールの受賞効果と販路開拓について
- ・酒造りによる地元農産物の利用と農業への波及効果について
- ・キッチン・ラボ新設による賑わい創出効果について
- ・酒造りを希望する人の受入れ状況と移住定住について

令和6年5月28日（火）

◆調査箇所：中部振興局、公文書館、大分県税事務所

【概要】

中部振興局における管内の概況、組織と施策体系、危機管理（防災対策の推進、特定家畜伝染病対策）、地域活性化の推進（旧町村部地域の振興、移住・定住と空き家対策）高齡化集落対策（ネットワーク・コミュニティの推進と支援）、観光・商工業の振興（地域観光振興対策、地場産業の振興）について、公文書館における組織及び職員、沿革、主な業務、施設の概要等について、大分県税事務所における管内の概況、組織及び所管事務、令和5年度県税決算見込額、税目別調定額及び徴収率の推移、特別滞納整理室の処理状況等について、それぞれ説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ふるさと納税を活用した、まちづくり協議会への支援について
- ・帰省シーズンにおける管内市町村の災害対応の検討状況について
- ・公文書デジタル化の予算や進捗状況、市町村の公文書保存状況について
- ・徴税における県から派遣された職員や市町村相互併任職員の職務について

◆調査箇所：さかのせきのささえ（大分市佐賀関）

【概要】

さかのせきのささえは、社会医療法人関愛会が中心となり、地元企業や住民、商工会議所等の各種団体、日本文理大学の学生グループよろずやながはる、NPO、行政などが連携し、佐賀関の生活課題や地域ニーズを解決するために活動を行っている。令和6年2月に学生ふれあいカフェがオープンしたことで、住民や関係者の連携が更に深まり、健康相談やデジタルデバイド解消の取組も加速している。

当日は、ふれあいカフェを訪問し、増永会長ほか関係者から佐賀関ポータルサイトの内容など、これまでの取組について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・学生ふれあいカフェに集う高齢者や学生の交通手段や住居の範囲について
- ・グリーンスローモビリティの運行ルートと利用者について
- ・学生や企業、各種団体等との連携が成功している理由について
- ・日本文理大学の学生の以外の高校生や大学生の参加状況について

◆調査箇所：大分県立芸術文化短期大学（大分市上野丘東）

【概要】

大分県立芸術文化短期大学の沿革と学科構成、機構及び職員組織、予算、教育課程、学科・入学者の状況、令和5年度卒業生の進路状況、地域との連携、地域・社会貢献事業、施設、第4期中期目標・中期計画、重点事業や今後の課題等について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。

当日は、キャンパスの整備状況として、大学内の図書館、音楽ホール棟、美術棟、芸短ギャラリーなどの施設や展示作品、授業の様子についても視察を行った。



<主な質疑等>

- ・ハラスメント対策の具体的な取組と相談窓口について
- ・卒業生の進路及び県内就職率と大分市以外の地域での地域貢献活動について
- ・留学生の受入れ等について
- ・市町村が保管する美術品の適正管理に関する指導等について

◆調査箇所：スパークルおおいた（大分市顕徳町）

【概要】

スパークルおおいたレーシングチームの監督兼GMである黒枝美樹氏は、大分市で自転車を活用したまちづくり施策を担当した経験をいかし、大分県に自転車文化を根付かせるため親子で活動している。プロサイクルチームとして日本一のチームとなること、日本一のファンコミュニティをつくることを目標に、サイクルショップとカフェの運営、自治体への政策提案など、様々な活動を行っている。

当日は、サイクルショップ兼カフェを訪問し、チームの概要やこれまでの取組、ツール・ド・九州を核にした地域振興などについて説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ツール・ド・国東の終了に係る経過、杵築市等の自治体へのアドバイスについて
- ・サイクルショップ兼カフェの運営とファンコミュニティの形成について
- ・ツール・ド・九州2024の展望について
- ・地方における公共交通の維持と自転車の活用について

令和6年6月4日（火）

◆調査箇所：別府総合庁舎（別府市鶴見下田井）

【概要】

別府総合庁舎の敷地には県税事務所、保健所、土木事務所、教育事務所などの建物18棟が林立し、利用者や職員の利便性が悪く、老朽化も進んでいる。令和7年秋の完成を目指し、官民連携事業（DBO方式）で5階建ての庁舎に建て替えている。

当日は、県有財産経営室と受注者の平倉建設グループから今後の建設スケジュールや新たな庁舎の概要、維持管理の計画、環境に配慮した取組などについて説明を受け、質疑と意見交換を行い、建設工事の進捗状況についても調査を行った。



<主な質疑等>

- ・庁舎の設備及び電気系統の配置や消防設備点検を含む維持管理業務の内容について
- ・建替事業における契約金額の内訳と維持管理費や人件費等について
- ・Z E B R e a d y 認証取得の予定時期と太陽光発電蓄電池の設置について
- ・物価高による建設費増加の見込みとスライド条項の適用について

◆調査箇所：北部振興局、中津県税事務所

【概要】

北部振興局における管内の人口推移、組織及び人員、危機管理（地区災害本部体制、特定家畜伝染病対策）、地域の振興（地域活力づくり総合補助金等による支援）小規模集落等支援事業（補助金の活用と小規模集落応援隊）、宇佐駅の機能強化による地域・観光活性化事業、外国人労働者への支援について、中津県税事務所における管内の概況、組織、重点取組事項、令和5年度県税決算見込額、税目別調定額及び徴収率の推移、税目別収入未済額及び徴収率の推移についてそれぞれ説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・北部地域に外国人労働者が多い理由と自治体の受入体制について
- ・地元グルメPR事業のアクセス数と掲載業者の選定基準について
- ・軽油引取税の調査頻度や方法と不正軽油の販売や免税軽油の不正防止について
- ・移住者による継業、起業と特定地域づくり事業協同組合の設立状況等について

◆調査箇所：八幡地区まちづくり協議会（宇佐市役所）

【概要】

八幡地区まちづくり協議会は、令和元年9月に宇佐市で18番目の地域コミュニティ組織として誕生した。八幡小学校との共同開催の現地見学・学習会や外国人を含む600名以上が参加する多文化共生ふれあい広場の開催、乙女新田海岸の清掃、郷土史「やはたの歴史」発行など非常に活発に活動を行い、ホームページ等で情報発信も行っている。

当日は、西会長や協議会事務局、宇佐市まちづくり推進課の皆さんから、これまでの組織の概要や活動状況について説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・子どもを含む多くの参加者がイベントや清掃活動に参加する理由について
- ・郷土史やガイドブック作成における地域の協力や発行の経緯について
- ・まちづくり協議会の構成員と地域づくり協力隊員の活動について
- ・まちづくり協議会への宇佐市の関わりと支援内容について

◆調査箇所：すえひろや・やばけいサイクリングツアーズ（中津市諸町）

【概要】

マクプライド・渡辺さん御夫妻は、築100年以上の味噌蔵を改装して、インバウンドやサイクリスト向けのゲストハウスすえひろやをオープンし、地域の交流拠点となる活動も行っている。また、やばけいサイクリングツアーズの松永さんは、地元である耶馬溪の里山サイクリングツアーや県内各地のサイクリングガイドにより、大分県の魅力を紹介している。

当日は、すえひろや開設までの経緯やサイクリングツアー参加者の概要、滞在型観光における今後の事業展開などについて説明を受け、質疑及び意見交換を行うとともに、すえひろやの施設調査も実施した。



<主な質疑等>

- ・アドベンチャーツーリズムと外国人観光客の自転車利用状況について
- ・サイクリングツアーのコース、距離設定、料金及び自転車の調達等について
- ・地域おこし協力隊からの起業と事業の課題、他業種との連携について
- ・公共交通が不足している地域での自転車活用について

令和6年6月5日（水）

◆調査箇所：西部振興局、日田県税事務所

【概要】

西部振興局における管内の概況、組織及び業務体系、危機管理（防災対策、特定家畜伝染病対策）情報発信、地域活性化策の推進（地域活力づくり総合補助金、日田彦山線BRT地域振興支援事業、移住・定住の促進）高齢化集落対策の推進、観光・商工業の振興等について、日田県税事務所における管内の概況と組織、重点実施事項、令和5年度県税決算見込額、県税調定額、徴収率及び収入未済額の推移等について、それぞれ説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・地域活力づくり総合補助金におけるチャレンジ枠の活用状況について
- ・管内におけるオーバーツーリズムの状況と入山税の検討について
- ・インスタグラムによる情報発信とフォロワー、アクセス件数について
- ・第1回ツール・ド・九州における経済効果と今後の方針について

◆調査箇所：&TENRYO（アンドてんりょう）実行委員会（日田市豆田町）

【概要】

日田・玖珠・九重地域にある酒造会社で結成された&TENRYO実行委員会は、住民やインバウンドへ地域の食や酒、伝統文化をPRするため活動を行っている。令和5年度はツール・ド・九州に合わせて、&TENRYO酔郷祭を開催することで約3千人の来場者を集め、大分ステージの盛り上げに大きく貢献している。

当日は、富安代表や関係者から組織の概要やこれまでの活動状況、日田彦山線BRT開通を契機に開催した、ひたひこ沿線酒蔵巡りの実施状況などについて説明を受け、質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・酒蔵巡り開催による集客効果とSNSによる情報発信について
- ・川を観光資源とした屋形船を活用するイベント開催の検討について
- ・イベント開催時以外の酒蔵巡りにおける公共交通の課題について
- ・酒蔵巡りによる地域活性化と酒税の目的税化について

◆調査箇所：一般社団法人くすこのえ産直ネット（玖珠町帆足）

【概要】

一般社団法人くすこのえ産直ネットは500名を超える生産者が参加し、自らがつくった農産物や加工品を自由に収益性も見込みながら販売できるプラットフォームづくりに取り組んでいる。福岡県内のスーパーと提携したインショップ店舗で販売を行い、令和5年度は5億円を超える売上げがある。また、高齢化による担い手不足の解消に向け、生産者育成にも取り組んでいる。

当日は、健木代表理事や関係者から法人の概要や産直ネットの特徴ある取組について説明を受け、質疑及び意見交換を行うとともに、地域活力づくり総合補助金を活用した集出荷場や精米機などの施設調査も実施した。



<主な質疑等>

- ・福岡県への販路開拓のきっかけと現在の組合員の年齢層について
- ・担い手確保の取組と近隣の農業生産法人との連携について
- ・加工食品を出荷する生産者の人数と衛生基準国際化の影響について
- ・組合参加希望者への情報発信と新規就農者への栽培講習会について

◆調査箇所：大津留まちづくり協議会（由布市庄内町東大津留）

【概要】

大津留まちづくり協議会は、住み慣れた場所に住み続け、地域外に出た人が戻り、移住したくなる地域を目指して活動を行っている。毎月第4日曜日のおおつるマーケット開催やおおつるカフェの開設、竹細工教室、広報誌の発行や健康教室しゃべり場の開催など、自主財源を確保しながら地域の活性化に取り組んでいる。

当日は、安部会長や関係者から協議会の組織や概要、大津留産の小麦粉を使用した「おいちゃんうどん」の開発と販路拡大の取組について説明を受け、旧小学校舎を活用したおおつる交流センターの利用状況などについても調査を行った。



<主な質疑等>

- ・まちづくり協議会の収支決算と多面的機能支払交付金の広域体制化について
- ・まちづくり協議会の構成と各地区自治委員との関係について
- ・ふるさと納税の活用と自主財源確保について
- ・イベントにおける子どもの参加人数と大津留地区の子どもを持つ世帯数について